

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19520293

研究課題名（和文） サンスクリット大叙事マハーバーラタのテキスト形成史の解明

研究課題名（英文） Studies about the text-history of the Sanskrit great epic Mahabharata

研究代表者 土田 龍太郎

(TSUCHIDA RYUTARO)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：20163826

研究成果の概要（和文）：大叙事詩マハーバーラタの複雑な語り構造を分析調査し、その結果、叙事詩テキストの成立過程とおよその成立年代を明かにし、さらに他のテキストすなはちラーマヤナなどとの関連について良き手掛りを得ることができた。

研究成果の概要（英文）：As the result of full-scale investigation into the intricate textual construction of the Mahābhārata I succeeded in throwing ample light on the process of gradual formation of the epic text as well as to present an approximate chronology about the same process. Further, I got some valuable clues for elucidating the relationship between the Mahābhārata and the Rāmāyaṇa.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：その他の各国文学

キーワード：印度文学

1. 研究開始当初の背景

(1) サンスクリット大叙事詩マハーバーラタの内容構成は複雑を極め、現行テキストがほとんど一千年以上に亙る多くの編者の編纂活動の所産であることは疑ひない。

(2) マハーバーラタの形成過程については十九世紀以来実にさまざまな学説が唱へられてきたが、説得力のある学説はいまだ提示されておかない。

2. 研究の目的

(1) 大叙事詩マハーバーラタの成立過程を解明し、成立過程諸段階それぞれのおおよその年代を推定する。

(2) マハーバーラタの語りの枠に注目し、ヴァイシャムパーヤナの語りを枠とする伝本とウグラシュラヴァスの語りを枠とする伝本の性格・相互関係・成立時期について考察する。

3. 研究の方法

(1) 現行マハーバーラタ諸刊本および同叙事詩のさまざまな内容目録・要約的文献を集め、比較検討する。

(2) マハーバーラタの語りの構造を分析し、ヴァイシャムパーヤナの語りを枠とする伝本 (V) とウグラシュラヴァスの語りを枠とする伝本 (U) の前後関係および各伝本の基本性格・成立事情を解明する。

(3) マハーバーラタの付篇ハリヴァンシャの叙述を吟味し、その結果を踏まへてハリヴァンシャ主要部およびそれに先立つ U 伝本と V 伝本のおおよそその成立時期を推定する。

(4) ほかの叙事詩ラーマヤナとの相互影響関係を調査し、マハーバーラタ形成史に側面から光を当てる。

4. 研究成果

(1) マハーバーラタ (Mbh) の現行テキストはヴァイシャムパーヤナ (V) の語りとウグラシュラヴァス (U) の語りよりなる重層的叙述構造を具へてゐる。テキストの緻密な分析の結果、かつて V の語りの枠のみからなる V 伝本が存在し、それはおそらく Mbh I, 54 から始まるものであることが判明した。

(2) Mbh I, 4-53 の主要内容をなす長い Āstika 物語は本来独立の叙事詩であったと考へられる。Mbh I, 54 で始まる V 伝本の前に、この Āstika 物語が付け加へられた時に、この物語をも包攝する新たな語りの枠 U が V の外側に設けられたと考へられる。したがって、形式上は全 Mbh に互る枠 U は、一見なにか雄大な構想のもとに造られたかのごとくに見えるが、本来は追加部分にすぎない Āstika の説話の都合によって設けられたものにすぎないことが、テキストの丹念な吟味のすゑに判明した。

(3) Mbh I, 1-3 は Mbh I, 4 に始まる U 伝本成立の後順次追加されていったものであり、その主要内容は Mbh 全篇の要約と解題であることが判明した。

(4) Mbh の附篇 Harivaṃśa (HV) の第三部をなす Bhaviṣyat というテキストは Śuṅga 王朝開祖 Pusyāmitra 王の aśvamedha の祭りへの批判を主要内容とし遅くとも Śuṅga 朝後期には成立してゐたと考へられる。この Bhaviṣyat ははじめから U の語りの枠の内に組みこまれてゐるから、Mbh の U 伝本はどんなに遅くとも Śuṅga 朝初期、おそらくは Maurya 朝期に成立したと思はれる。とすれば、この U 伝本に先立って成立したはずの V 伝本は Maurya 朝期もしくは前 Maurya 時代にすでに作られてゐたと考へねばならない。さまざまな考察の結果、Mbh の V 伝本は紀元前 4-5 世紀にはすでに存在してゐたと推測されるのである。

(5) Rāmāyaṇa (Ra) 第 7 卷 Uttarakāṇḍa (Uk)

は同叙事詩の中で最も成立の新しい部分である。UK と Mbh や Hv の内容を丹念に比較調査した結果、UK の編者は Mbh と Hv の内容を十分に踏まへ、Mbh 的歴史観とは異なる Rāma 王家中心史観を掲示してゐることが判明した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 3 件)

① Ryutaro Tsuchida, Consideration on the Narrative Structure of the Mahabharata. Studies in Indian Philosophy and Buddhism 15, pp.1-26. 2008. 査読有

② Ryutaro Tsuchida, Some Reflections on Chronological Problems of the Mahabharata. Studies in Indian Philosophy and Buddhism 16, pp.1-25. 2009. 査読有

③ Ryutaro Tsuchida, On the dynastic transition from the Sungas to the Kanvayanas. Studies in Indian Philosophy and Buddhism 17, pp.1-20. 2010. 査読有

[学会発表] (計 1 件)

① Ryutaro Tsuchida, Janamejaya and Pusyāmitra. The 14th World Sanskrit Conference. The University of Kyoto.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土田龍太郎 (TSUCHIDA RYUTARO)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：20163826